



インタビュー
n t e r v i e w

輝いている人

踊り手と見る人の
一体感があるまつりにしたい

8月1日に高梁川河川敷グラウンドで開催される、総社市民まつり雪舟フェスタで実行委員長を務めるのが浅原幹夫さんだ。

平成14年からまつりに携わり、主に裏方を担当してきた。今回は表に回ってまつりを引っ張る。

「今年はやぐらの周りを回りながら踊るよ」。例年、直線だった踊りコースを周回コースに変えたと話す。会場の中央には、ステージを挟むように2つのやぐらが設けられ、ここを中心に輪になって踊る。

総おどりでは500人以上のおどり連が作る輪を、観客の輪が包み、その中央にはステージがある。「踊りやステージが会場のどこからでも見え、一体感のあるまつりを作れたかった」と、会場の配置図を指示しながら今年のテーマを語

る。また、「市民まつりは、おどりがメインだと思う。踊り手にも見る人にも楽しんでもらいたい」とも。

開催が間近に迫った7月中旬、まつりを担当するメンバーとともに、毎晩のように打ち合わせや準備をしている。「準備することはまだまだたくさんあるが、みんな一生懸命考え、やってくれている」と、メンバーのがんばりを頼もしく感じると言う。

毎年盛り上がる「ええとこ囃しコンテスト」もある。詳しくは話せないと前置きしながら、「花火にも一工夫できた」と、にっこりする。

雪舟フェスタは、総社の夏の一大イベント。「総社が元気になるようなまつりにしたい。皆さん会場に来て楽しんでください」と、メッセージをくれた。

今年の総社市民まつりの実行委員長を務める

浅原 幹夫さん

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。



おもちゃが壊れたら、すぐに捨ててしまいませんか。すぐに捨ててしまうのは、かわいそうですよ。

治療をすればまだ遊べるおもちゃもあります。「総社おもちゃの病院」で、お気に入りや思い出のあるおもちゃの病気やケガを治して、またいっしょに遊びませんか？

おもちゃの病院は、毎月第2日曜日の午前10時から午後2時まで開院しています。会場は、偶数月が総合福祉センター、1・5・9月は山手ふれあいセンター、3・7・11月は清音福祉センターです。

病院へは親子でいっしょに来て、おもちゃが治る瞬間をいっしょに体験してください。治療は無料ですが、新品の部品に交換した場合は、実費が必要になります。テレビゲームなどは、治療できません。

詳しいことは、市社会福祉協議会（☎08555）までお尋ねください。

総社おもちゃの病院の代表の吉田護さん（井尻野。上の写真）。同病院では、年に100個ほど治療すること。吉田さんは、「9割以上の病気やケガは治せます。多いのは、電気配線の接触不良や断線、可動する部品が折れたり割れたりしているものです。動くぬいぐるみの足が折れたりというのもありました」と教えてくれました。また、「おもちゃは、大事に使って遊んでね」と、子どもたちへのメッセージもくれました。



栄養委員さん おすすめおやつ にんじんゼリー

（1人分 約50 kcal）



◆材料・数量（6人分）

- A……ニンジン150gを薄切りにしゆでたもの、ニンジンのゆで汁に水を加えたもの=1カップ、さとう60g
- B……粉寒天=1袋、水=1カップ
- レモン汁……大さじ2

◆作り方

- ① Aをミキサーにかけて、ジュースにする。
- ② Bを煮て溶かし、1～2分沸騰させる。
- ③ ①と②を合わせたものにレモン汁を加え、よく混ぜた後、型に流す。
- ④ ③を冷やして固める。

◆アドバイス

ニンジンが苦手な子どもでも、オレンジみたいで食べやすいよ。